



I-OWA マンスリー・セミナー講演より ワシントン・永田町裏道・表道

講演： 永田町のランダム・ウォーカー氏
レポーター： 赤堀 薫里

私はアメリカのシンクタンクで働いていましたが、アメリカのシンクタンクと日本のシンクタンクのレベルの違いは歴然です。日本のシンクタンクの金融系は、ほとんどがサラリーマンの集まりです。アメリカのシンクタンクは元大臣、元下院議員等がいます。例えば現在 FRB 議長のイエレンやノーベル賞を取った彼女の旦那さんもいました。そこで、ワシントンのリボルビングドアの世界を目の当たりにしました。4年に一度行われる大統領選挙では、その政権交代時にポリティカルアポイントと言われる人達が3~4千人移動します。次官補代理以上の人は政権が指名します。日本のようなキャリア官僚は、日本の組織でいうと課長か局次長まで。政権が入れ替わると上の方がごそっと入れ替わるのです。

私がいたシンクタンク自身も政権にアドバイスするブレーンでもあるし、人もポリティカルアポイントで入ります。例えば政権が共和党から民主党に替わると、政権の外に戻り、外でシンクタンクや大学の先生をやりながら政権に対してチェック機能を果たす。このリボルビングドアのシステムは日本にはないものです。日本は官僚になったらずっと官僚。つまり横のつながりがないわけです。これだと政治のレベルアップが図れない。

ブッシュ政権の時にハンク・ポールソンが財務長官になりました。彼はゴールドマンサックスの会長だった人です。日本でいうといわば野村證券の社長が財務大臣になる話ですが、日本ではまずありえませんよね。今の財務大臣、麻生さんは「株をやる人はいかがわしい」と思っていますから。日本の総理や財務大臣をやる人の知識レベルは高くない。日本の株式市場がなかなか盛り上がらないのは、業界の問題もありますが、政治の意識にもあるのではないかと思います。アメリカは、専門性がある人が財務長官になります。その道のエキスパートがリボルビングドアで政府に入る世界は非常に面白い。

率直に言うと安倍さんは、経済にはあまり興味がありません。安倍さんの唯一最大の目標は歴史に名前を残すことです。祖父は総理大臣の岸信介、父は外務大臣をした安倍晋太郎とサラブレッドです。何不自由なく育ってきたため、非常に人が良く、友達にするのであれば最高の人。ただ、



長期投資仲間通信「インベストライフ」

逆に友達に嫌われると非常に慌てる。安倍さんは信念を持ってやっているようですが、親しい人に言われると腰砕けになってしまう。これが小泉さんとの違いです。小泉さんは変人で、友達なんていないですからね。だから誤解してはいけないのは、安倍さんは、既得権益を潰す凄い改革をやるタイプではなく、皆と仲良くやっていく性格です。

経済以外の政策については、北朝鮮の拉致家族返還、北方領土返還、憲法改正、亡き祖父が果たせなかった東京オリンピックを総理としてホストするという野望があります。北朝鮮の拉致家族返還に関しては、相手が悪いせいしかほぼ半分放棄。任期延長を果たすためには、経済が失速し、支持率が下がり、政権が立ち行かなくなる状態だけは避けたいわけです。慶応大学のOさんが「アベノミクスは苦痛の先送りと、快樂の先取りだ。」と言っていました。

アベノミクスの3本目の矢である「成長戦略・構造改革」を期待していましたが、過去3~4年見て、ほとんど手が付けられていなかった。今後も手が付けられないでしょう。安倍さんは、移民政策や農業改革等、党内が割れるような議論をしたら、憲法改正が実現できなくなってしまうので、党内を割る気は全くない。経済政策はそこそこに、構造改革というより短期的な景気刺激を続ける中で自分の政権を延命化して目標を実現化していきたい。

講演では、日本の政治家は、役人に踊らされることなく、結果に責任が伴う政治家こそが総合的な判断をする政治主導の社会を作るべきであると力説されました。また、安倍政権で力を入れている北方領土の返還について、憲法改正の現状、オリンピックへ懸ける思いやその理由を解説くださいました。最後に、これから税制改正があるなか、減税もなくほとんど増税であろう安倍政権の成長戦略の目玉として、今後のIR(カジノを含む総合型リゾート)推進法案の行方や、IRの将来性についてお話いただきました。

<質疑応答>

岡本 | 今日は日本および海外で世界の政治、経済を長年にわたってフォローしてこられた永田町のランダム・ウォーカーさん(以下、永田町)に普段聞けないようなお話を伺えればと思っています。みなさんから質問はいかがでしょうか。

参加者 | 次の日銀総裁はどうなるのでしょうか? 経済界についてもアベノミクスに距離を置き始めて、財政再建という声が出始めています。一方、安倍さん周辺では、本田悦朗さんがスイスから帰ってきたら日銀総裁になるという話も出ています。多分、来年辺りからいろいろな話が出ると思いますがどうでしょうか。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

永田町 | 黒田さんは、2013年3月に指名されました。任期5年間ですから2018年3月までです。安倍さんは、実は初めから黒田さんを指名する気ではなかったそうです。当時、最終的に3人が残っていました。岩田一政さん、武藤敏郎さん、そして黒田さん。リフレ派というか安倍さんの側近は岩田さんを推していた。財務省及びそのトップの麻生さんは武藤さんを推していた。黒田さんはその真ん中にいた候補です。財務省出身だけど、リフレ派的な部分もある。

安倍政権発足後、麻生さんが、ギャングスターのような恰好で Санктペテルブルクで行われたG20に参加しましたが、あの時、麻生さんはかなり気が張っていました。実はその前年に安倍さんが自民党総裁になった時点で、日銀総裁である白川さんをも更迭して、リフレ派を持って来るだろうと多くの人が考え、相場も株高円安に動いていました。「日本は円安政策を主導している」と各国から袋叩きに遭いかねない状況だったわけです。

為替はどんどん円安に動いている状態でした。各国から「隣人窮乏化政策をやって」と言われかねない状況を麻生さんは上手く収めて戻ってきました。そんな矢先、安倍さんが国会で、日銀による外債購入を検討すると言い、更に円安に拍車がかかるわけです。その直後に麻生さんが乗り込み「ふざけるな。俺があれだけ火消をしてきたのに、なぜ火に油を注ぐようなことを言う。日銀総裁も岩田は駄目だ。諦めろ」と言いました。安倍さんも、「武藤は絶対にいやだ。」と言い、麻生さんが「喧嘩両成敗だ、間をとって黒田にしよう」ということになったという話があります。

安倍さんや菅さんは、財務官僚は誰が来ても同じことを言う金太郎飴みたいで嫌いでしたが、同じ財務省出身の黒田さんは、安倍さんから見ると違っていました。黒田さんはある意味、ヒットかもしれません。まともな経済学者であれば、2年間で物価上昇率を2%実現するとは言えません。黒田さんは、「はったり屋」ですね。それを見てマーケットは「今までとは全然違うタイプだ」と、それに乗ったわけです。それが2013年。

2014年4月に消費税が上がります。消費税を上げる半年前に、消費税を上げるかどうか専門家を使って議論をします。その時、「今更、消費税を上げないという選択肢があるのか？企業もシステムも上げる方向で動いているのに、半年前に上げないとなった場合混乱させるだけではないのか。次にこのような議論する時は少なくとも1年以上前にしなくては駄目だよな。」という話になりました。

次の消費税の上げが、2015年10月。そこで2014年10月に消費税を上げるか上げないかの議論が始まりました。その頃、黒田さんは公の場で「消費税はきちんと上げてください。」と再三言いました。それで安倍さんは黒田さんが疎ましくなります。2014年10月に黒田バズーカがさく裂。これで消費税上げは決まりだと誰もが思いました。官邸と示し合わせているなど。でも安倍さんは消費税増税を延期して解散総選挙に打って出たわけです。

黒田バズーカがさく裂した時に安倍さんの第一声は「俺は聞いてない」だったそうです。安倍さんからするとすごく不愉快だった。なぜなら「どうだ、これでもう消費税は上げるしかないだろう」と、自分の喉元に包丁を突き付けられた感じでした。しかし安倍さんは、逆に絶対消費税はあげないで延期してやると決意を固めたので、黒田バズーカは逆効果だっ



長期投資仲間通信「インベストライフ」

たわけです。そこから安倍さんと黒田さんの間には隙間風が吹くようになりました。あの頃、黒田さんも政策決定会合をやるたびに、5対4と1票差。そこまで強引にやっているだけに引っ込みがつかない状況です。一応、政府と日銀は同じベクトルに向いているけど、溝は結構あいている。ここ1年位経って、日銀の審議委員がどんどん入れ替わっています。木内、佐藤というアンチ主流派は残っていますが、他は皆「イエスマン」になりました。今は黒田さんが動こうとしたら7対2です。もう執行部は割れない。黒田さんが何を考えているのか直前までわからないという部分もあります。1月のマイナス金利の時も黒田さんは、ほとんど周りの人に相談せずに一部の執行部の人間と提案しています。

本田悦朗さんは非常に安倍さんに近いブレーンです。何故、彼が近いブレーンになったかという、河口湖で安倍さんの隣に別荘を持っているからです。安倍さんが1度目の総理を辞めた時に、河口湖の別荘にこもっていた時がありました。その時に別荘が隣同士ということで親しくなり、本田さんから「日銀の総裁を入れ替えればデフレは退治できる」と聞き、「もう一度総理になるチャンスがあったらやってやろう」と思うわけです。

安倍さんは本田さんのことが好きです。本田さんがなぜスイス大使になったのか。それは、本田さんの息子さんがスイスのボーディングスクールに行っているからです。安倍さんは友達思いだから、「お子さんと離れて淋しいでしょ。スイス大使にしてあげるよ」とオファーしたわけです。その時に「本当は本田さんには黒田さんの後任をやって欲しいんだよね」と言ったそうですから、安倍さんの中では、全く考えていないわけではない。

これは安倍さんが決めることです。たすき掛けでいくと日銀ですよ。今の副総裁の中曾さんなどの名前が出てきますが、安倍さんはたすき掛けに戻る気はないし、財務省も日銀も安倍さんの人事権について発言権があるとは思えません。このままいくととんでもない人が選ばれる可能性が高い。それならば黒田さんが延長してくれた方が破綻は少ないと思います。ただ黒田さんも2%の目標を先延ばししています。これ以上延ばすと自分の任期の外にいつてしまい、達成できなかつたら潔く本人が身を引かれるのかもしれない。日銀総裁人事はワイルドカード。もう金融政策は死んでいるわけですよ。もはや日銀のやっていることは、国債引き受け機関みたいなものですからね。どうでもいいのかなって感じですね。

参加者 | マイナス金利の深堀が、場合によってはあるのかなと個人的に思っています。ただ、あまりやりすぎてしまうと、副作用が出てきてしまうと思いますがどういうことが考えられますか。

永田町 | 黒田さんは銀行の文句はほとんど気にしていません。「つい最近まで、不良債権償却の繰延税金資産で、儲かっても税金を支払わずにきたじゃないか。さんざんメリットを受けて来たのにこんなことぐらいでガタガタ言うな」というのが本音です。

ただ黒田さんが気になっているのは金融庁長官の森さんという人です。この人は、菅さんから可愛がられていて、政権に影響力があります。金融庁がマイナス金利の弊害を口に



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

し出しているので無視できなくなってきた。森さんは長官 2 年目ですが、菅さんからあと 3 年はやってほしいと言われていましたし、その後も、財務事務次官をやってもらいたいという話が出るほど、かなり評価されています。

黒田さん自身もまだ効果が出ていないだけで、間違っことをしていないと思っています。総括でも深堀を否定していないし、必要であればやりたいと思っているでしょう。

森さんが評価される理由は、政権から見てアベノミクス風の株高に非常に貢献したことです。その間、金融庁は、GPIF 改革、コーポレートガバナンス改革、郵貯改革のような公的な改革を、政府のお金を一銭も使わずに行い、株を上げているので評価が高いわけです。

参加者 | 先ほどのお話の中で、安倍政権には党内にライバルが一人もいないとありましたが、海外の投資家から見たら期待感を失い、海外からのお金が入ってこなくなる、現実になっている気がします。海外から見た安倍政権やアベノミクスの期待感をどう思いますか。

永田町 | これはマイナス金利以降の状況ですが、3 本の矢の中で唯一光り、期待を持っていた金融政策の部分まで化けの皮がはがれてしまったわけです。かなり外国人投資家は失望しています。ヘッジファンド自身が、今年全然儲けられていませんからね。日本に対してじっくり腰を据えてというわけでもない。28 兆円の補正予算にも全然反応していません。よくわかるのが、今は投資家が全然来ていません。2~3 年前は大勢の投資家が来て、「誰か官邸に会わせろ」とアベノミクスフィーバーがありました。今はそんな需要がありません。そういう意味ではかなり期待は下がってしまっている。

ただ、日本はこれだけ流動性のあるマーケットですし、良くも悪くも他の国と比べて安定している国なので、全く無視はできない。引き続き見ているし、中長期的に持つのではなく、短期的に値ザヤ稼ぎは出来るマーケットだと思っています。

岡本 | はい、今日もありがとうございました。